

## 令和2年度南予地方局予算の実施状況（R3.3.31現在）

- 1 予算事項名 高級菓子用くだもの育成・ブランド開発事業費  
2 事業期間 令和元年度～令和3年度  
3 所 管 南予地方局産業経済部産業振興課地域農業育成室  
4 事業概要

管内3市町とJAえひめ南は、H26.10月に(株)源吉兆庵と農林水産物の生産及び安定供給に関する協定を締結し、H30.2月に(株)源吉兆庵愛媛宇和島工場が竣工稼働した。

安定した原料供給を通じて(株)源吉兆庵とこれまで以上に連携を深めながら、栽培品種の複数化等による農家の経営改善、生食品の販売戦略検討による宇和島ブランドの創造を図るとともに、地域農産物の活用提案や次世代に向けた産地づくりに取り組む。

	令和2年度
予算額	1,800千円

### 5 事業内容

- (1)「源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会」の設立(予算額 ゼロ予算)

開催日：7月7日、11月26日、2月2日(南予地方局)

目的：管内全域の情報共有や課題解決に取り組み、(株)源吉兆庵へ加工用果実の安定供給を図る。

内容：主要4品目(もも、くり、びわ、かき)の現状と今後の取組方針等を協議。

構成員：管内3市町(宇和島市・松野町・鬼北町)、JAえひめ南、(株)源吉兆庵、県

- (2)高級菓子用くだもの生産コスト低減・高収量安定生産技術の開発と推進(予算額442千円)

①ももの加工用栽培品種の複数化

- ・「清水白桃+大久保」の複数品種導入を進めた。
- ・松野町で出荷基準について講習会を開催(7月)。
- ・暗渠と高畝による土壌排水性の改善(10～12月)。
- ・今年度供給量9.7t(前年比160%)



排水改善し大久保を定植

②くりのカットバック剪定による低樹高と大玉生産の推進

- ・出荷講習(8月)
- ・剪定講習(1～2月)：樹を切り戻すカットバックせん定により、低樹高化(2.5m程度)の拡大及び大玉生産(2L果以上)を推進。
- ・今年度供給量23t(前年対比133%)



低樹高化したくり園

③びわの新規入植者の定着

- ・令和元年度に三浦地区のびわ園に新規入植した3人の生産者に安定生産に向けた基本技術を指導。
- ・収穫出荷の要領(果実の大きさや色等)を指導(5月)。
- ・講習会を開催し、剪定整枝(8月)、摘房摘蕾(12月)、摘果と袋掛け(2月)を指導。
- ・今年度供給量1.9t(前年対比146%)



びわの袋掛け講習会

④かきの最適収穫時期実証・低樹高技術の普及

- ・果実肥大、着色、条紋発生等を考慮し最適収穫時期を判定し、10月10日から荷受けを開始。
- ・果実の軟化対策として、早採出荷・追熟試験(500kg)を実施し、適期収穫果実と同程度の品質が得られた。
- ・講習会を開催し、摘果方法(6月)、出荷方法(10月)、労力軽減を図るため剪定による低樹高化を指導(12月)。
- ・今年度供給量 5.3t(前年対比149%)



かきの低樹高化

(3)高級菓子用くだもの育成及び開発(予算額185千円)

(株)源吉兆庵宇和島工場に加工用くだものを安定的に供給するため、新たな「くり・かき」の品種について品質や加工適性を調査

①くり：吉兆庵向け専用品種(青木1号)の育成

「青木1号」の品質を調査

(結果)果肉は黄色で食味も良好であったが、総合的な品質は「美玖里」が高かった。

②かき：柿の用途別品種の選定

「葉隠」の生育と品質など加工用適性の調査

(結果)「市田柿」に比べ「葉隠」は11月下旬でも軟化はなかったが、干柿品質は劣った。

(4)地域農産物を活用した新たな加工品の提案と商品化支援(予算額309千円)

①地域農産物を活用した加工素材試作品の開発

食品産業技術センターと連携し河内晩柑の果皮や、青ゆずなどの加工素材を開発。

②(株)源吉兆庵等への商品化支援

ブラッドオレンジ、河内晩柑、ゆずなど南予特産柑橘の加工利用を提案した。

(5)地域農産物のグローバル販売戦略検討(予算額365千円)

①源吉兆庵販路を利用した「菓子用くだもの加工品」及び「地域特産農産物(生食用)」の販売促進

- ・ほ場見学等を通じ紅まどんなや甘平の魅力を伝え、生食果実の販売を提案。
- ・加工業者に脱渋技術を指導し、規格に満たない柿の活用を図った。

(6)次世代に向けた菓子用くだもの産地づくりの推進(予算額499千円)

- ・暗渠設置等による排水改良講習会を開催し、機械化・省力化が図りやすく作業効率が良い水田転換畑での果樹安定生産を推進(3月)。
- ・びわの袋掛け作業の省力化を図るため、土のう袋や寒冷紗を使った枝単位での袋掛け試験を実施した(3月)。



もも園排水改良講習



びわの簡易袋掛け試験